# ー次元定常火道流の解析的研究: 気相・液相間の相対運動が 噴火タイプの多様性に与える効果

# 小園 誠史·小屋口 剛博 (東京大学地震研究所)

#### Introduction



火道流モデル (1/2)	(q:単位面積あたりの噴出率
	<i>ρ</i> :密度 <i>P</i> :圧力
• <u>質量保存</u>	<i>u</i> :速度 <i>T</i> :温度
液相: $q_1 = \rho_1 u_1 (1 - \phi) = (1 - n)q^{-1}$	$\phi$ :気相の体積分率(空隙率)
気相 $a = o u \phi = na$	$n: 気相の質量分率(n_0:初期)$
	<i>↓ <sub>ス</sub></i> :鉛直上向きの座標 <sup>H2O重)</sup>
•運動量保存	s : saturation constant
液相: $\rho_1 u_1 (1-\phi) \frac{\mathrm{d}u_1}{\mathrm{d}z} = -(1-\phi) \frac{\mathrm{d}P}{\mathrm{d}z} - \rho_1 (1-\phi)g + F_{\mathrm{lg}} - F_{\mathrm{lw}}$	
気液間の相互作用力 火道壁との摩擦力	
気相: $\rho_{g}u_{g}\phi \frac{du_{g}}{dz} = -\phi \frac{dP}{dz} - \rho_{g}\phi g - F_{lg} - F_{gw}$	
• <u>状態方程式</u> • <u>気相0</u>	<u>D質量分率</u>
$P = \rho_{g} RT$ 2008/11/10 $n = \frac{n_{0} - sP^{1/2}}{1 - sP^{1/2}}  (n \ge 0)$ 3	









### 火道流の解析的解法 (Koyaguchi, 2005)















2008/11/10

## マグマ溜りにおける粘性を用いた比較



### 溶岩ドーム・溶岩流の粘性を用いた比較



#### 溶岩ドーム噴火におけるマグマ空隙率変化





### 観測事実との比較 (火口・大気圧におけるマグマ空隙率)



#### Conclusions

- 多様な噴火タイプに対応する定常解(爆発解,非爆発解)の組み合わせと、マグマの性質・地質条件の関係を示すレジームマップを導出した.
- 溶岩ドーム噴火における火道内上昇中のマグマ空隙率, 密度変化に関する解析近似解を導出した.
- ・以上の解析によって、様々な火山観測データとの比較と 火道流のダイナミクスとの比較が可能になり、噴火タイプの多様性の成因をより実証的に明らかにすることができる。